

「重要湿地」に残土処分場計画 ～揺れる岐阜県御嵩町から

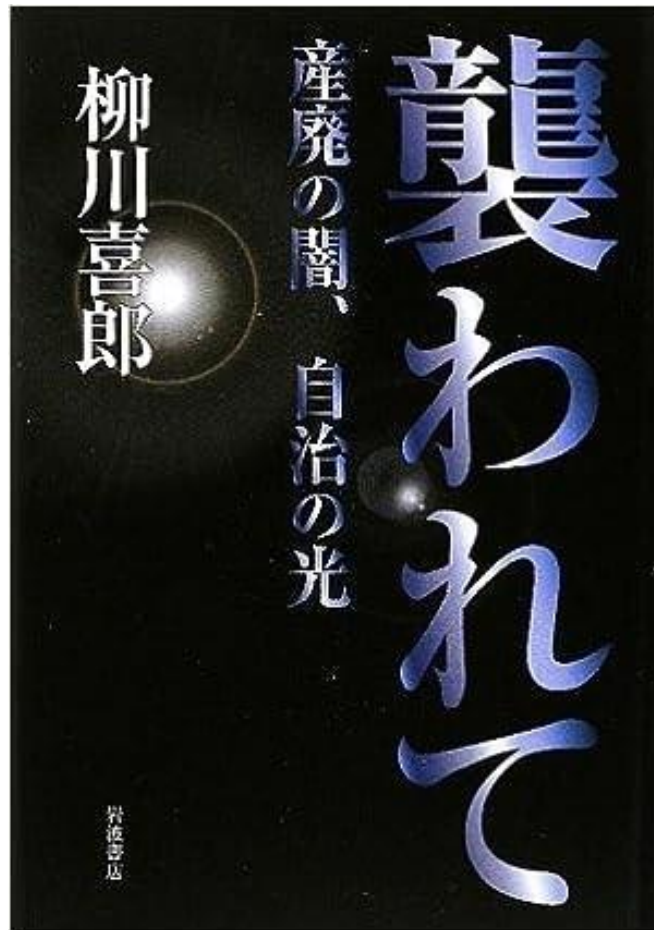
岡本隆子（御嵩町町議会議員）

井澤宏明（フリージャーナリスト）

2023年8月25日 オンラインシンポジウム「未来の交通インフラが環境破壊!？」

〈シリーズ第2弾〉～リニア・北海道新幹線のトンネル残土の問題～

産廃処分場計画に揺れた御嵩町



- 1996年、柳川喜郎町長が襲撃され翌97年、町は受け入れ是非を問う「全国初」の住民投票、計画撤回に追い込む。
- 町独自の「環境基本条例」や「希少野生生物保護条例」を制定し、レッドデータブックを作成。
- 2013年、国の環境モデル都市に。



サンデー毎日2022年11月6日号より

町有地がりニア残土処分場候補に

- 2014年6月、町議会で明らかに。(6月11日付中日新聞)
- 2013年1月、町有地を情報提供(候補地B)
- 2015年10月、候補地Bに隣接する民有地を情報提供(候補地A)

りニアの建設発生土運搬先

押山の町有地候補に

御嵩町は十日、りニア中央新幹線の建設発生土の運搬先に、美佐野押山地区の町有地を候補にしていることを明らかにした。

渡辺公夫町長が町議会一般質問で答えた。

町有地はゴルフ場の開発が計画されていた十二万三千平方メートルの一部。りニア計画路線の

地上部分百八十メートルの直近に位置する。

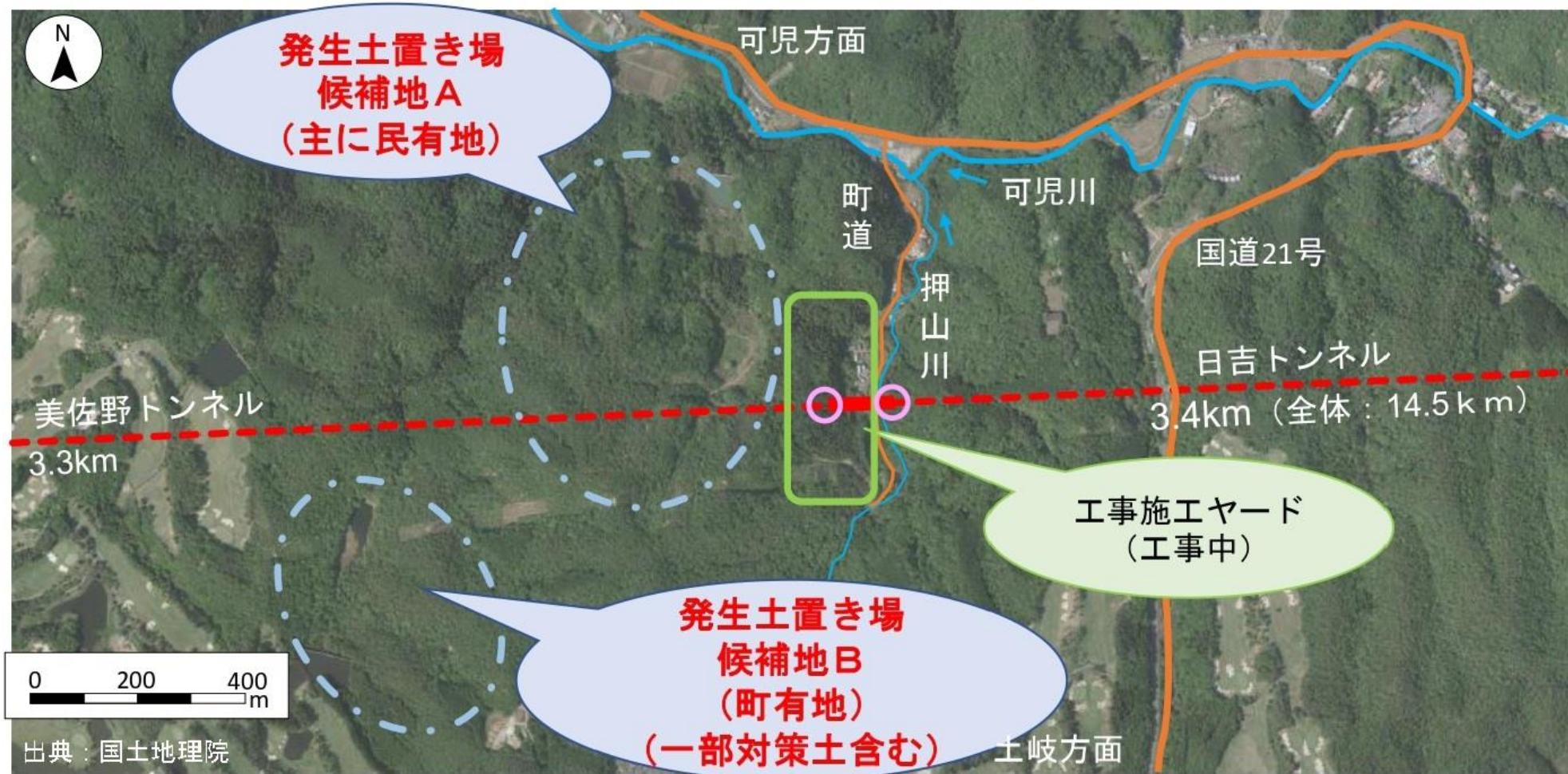
渡辺町長は県を通じて、JR東海に候補地として提案していることを説明し「周辺に民有地がある。今のところJR側から反応はなく、工事までに住民へ説明する時間が取れなければ断る可能性もある。年度中には

何らかの反応があるのではないかと述べた。

町によると、候補地が発生土の一時保管場所となるのか、埋め立て地として使われるかは不明という。

◇

町議会定例会の一般質問には七議員が立った。



リニア発生土置き場第1回フォーラム資料より

「リニア残土処分候補地にしていいのか」

2015年3月、町議会で一般質問

この町有地には2000万年前から命をつないで生き残っているハナノキなどの絶滅危惧種が群生。

河川の汚染が懸念されることなどから環境への影響が大きく、適地なのか疑問。

町

かつてゴルフ場開発の許可がなされ開発されようとしていた用地。まだ何も決まっていない。

町長「安全なものしか受け入れない」

2016年6月、町議会で一般質問

町有地へのリニア残土処分の安全性は？

渡邊公夫町長

「私は総じて安全なものしか受け入れません」と答弁している。JR東海に「町民との合意形成に1年は必要と考えている。その上でお断りすることもある」と伝えてある。

町、保護求める助言役に退職届



ハナノキ

カエデのなかまの落葉高木。日本固有種で、環境省のレッドリストでは、絶滅の恐れがある絶滅危惧2類に分類される。岐阜県東濃地方を中心に長野県や愛知県の限られた山間湿地などに自生する。春に赤い花をつける。愛知の「県の木」とされている。



リニア中央新幹線の建設残土処分候補地の一つ、岐阜県御嵩町の山林に、希少植物のハナノキやシデコブシが群生していることが分かった。保護を求める町の生物環境アドバイザーがJR東海に問い合わせたところ、町は「ルール違反」だとして注意し、退職届に署名するよう求めた。

リニア建設残土

処分候補地に希少植物

御嵩町 保護求める助言役に退職届示す



現地は、同町美佐野のリニアのトンネル出口予定地近くにある山林（約90万平方メートル）。町有地と民地が混在し、かつてゴルフ場が計画されていた。町は県を通じて残土処分の候補地に挙げ、JRが調査している。工業団地にする構想もあり、地元には埋め立てを歓迎する意見もある。

現地には、住民の調査で希少種のハナノキの成木80本、稚樹400本以上が見つかった。希少植物のミカワバイケイソウ、シデコブシの自生や、希少鳥類のサシバの営巣やミソゴイが自

2017年5月14日付
朝日新聞

JR東海が有害残土恒久処分を打診

御嵩町にリニア残土打診

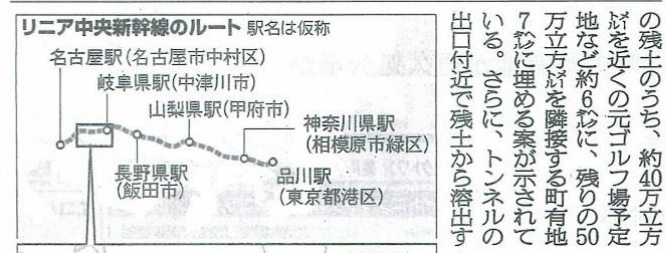
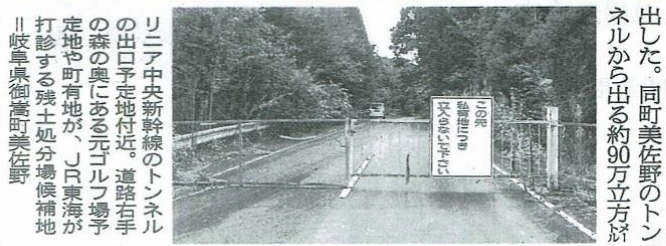
JR恒久処分 重金属含む恐れ

JR東海が岐阜県御嵩町に対し、リニア中央新幹線建設に伴う残土の同町内での恒久処分を打診していることがわかった。残土には重金属が含まれて土壌を汚染する恐れがあり、JRは環境基準を超える残土を処分する土地を購入して管理する方針だ。だが同町は産業廃棄物処分計画が大きな問題になった歴史があり、地元では反発や慎重な対応を求める声が出ている。

地元から反発も

御嵩町など岐阜県の東部には、自然由来のカドミウムやヒ素などの重金属が含まれる地質帯があり、トンネル工事で掘り出した場合、汚染対策が必要な「要対策土」となる。

JR東海はこれまで、岐阜県の要対策土の処分地に



出した。同町美佐野のトンネルから出る約90万立方メートルの残土のうち、約40万立方メートルを近くの元ゴルフ場予定地など約6畝に、残りの50万立方メートルを隣接する町有地7畝に埋める案が示されている。さらに、トンネルの出口付近で残土から溶出す

ついで、同県中津川市と瑞浪市の各1カ所に期間限定の「仮置き場」を設置している。御嵩町での恒久処分が決まれば、同県で初めてとなる。

JR東海は8月末、御嵩町と町議会に「取扱注意」と書かれた22ページの文書を提

リニア中央新幹線のトンネルの出口予定地付近。道路右手の森の奥にある元ゴルフ場予定地や町有地が、JR東海が打診する残土処分場候補地

岐阜県御嵩町美佐野

2019年10月7日付
朝日新聞

町長「最低でも1年は必要」

2019年12月、町議会で一般質問

対策土（有害残土）の受け入れについて、町はいつまでに決断するのか。

町長

最低でも1年は必要。判断を間違えれば町内が紛糾してしまう非常に難しい問題。

町長「遮水シートでは止まらない」

2020年9月、町議会で町長が答弁

- 御嵩町では、遮水シートではこういうもの（有害残土）は止まらない、また、破損した場合に駄目じゃないか、と（JR東海が残土の説明をした）その場で言ったはずです。
- 私は遮水シートについては、もう既に御嵩町では20何年か前に否定している、と言ったはずです。

町長「メリットはない」

2021年3月、町議会で一般質問

「御嵩町から出たものは町で処分しなければ」と町長。しかし、行政境を越えた部分が含まれている。町有地に要対策土を搬入するメリットは。

町長

こんな紋切り型のことは言った覚えはない。

要対策土を搬入することを前提とするのであれば、メリットはない。

町長「受け入れを前提として協議」

2021年7月3日

静岡県熱海市で土石流災害。死者28人。

同年7月10、11日

JR東海が御嵩町で住民説明会。

同年9月9日

渡邊公夫町長が町議会で「受け入れを前提として協議に入りたい」と表明。

町長が挙げた決断の理由

(リニア発生土置き場第1回フォーラム資料より抜粋)

- 自然由来の土である。
- 御嵩町の工区から発生する土である。
- 産業廃棄物処分場問題の際「何故、全国の廃棄物を御嵩町で…?」と疑義を呈した。そういう意味で、論理には整合性を持たせなければならない。
- 反対の声はあれど、解決策はない。
- 町民に判断を委ねる性質の問題ではない。
- 専門家と話ができて、一定の理解と納得ができた。

町がリニア沿線初のフォーラム

- 有識者を交えJR東海と協議。
- 2022年5月28日から2023年3月21日まで、計6回。予算は約550万円。
- テーマは、希少種の保全、要対策土（有害残土）、ウラン鉱床、盛土構造の安全性、封じ込め工法、二重遮水シート、水質モニタリング、排水設備、自然災害への備え、重要湿地の保全など。

6年間伏せられた「重要湿地」



リニア残土処分場候補地となっている御嵩町の美佐野ハナノキ湿地群



御高町のハナノキ自生地

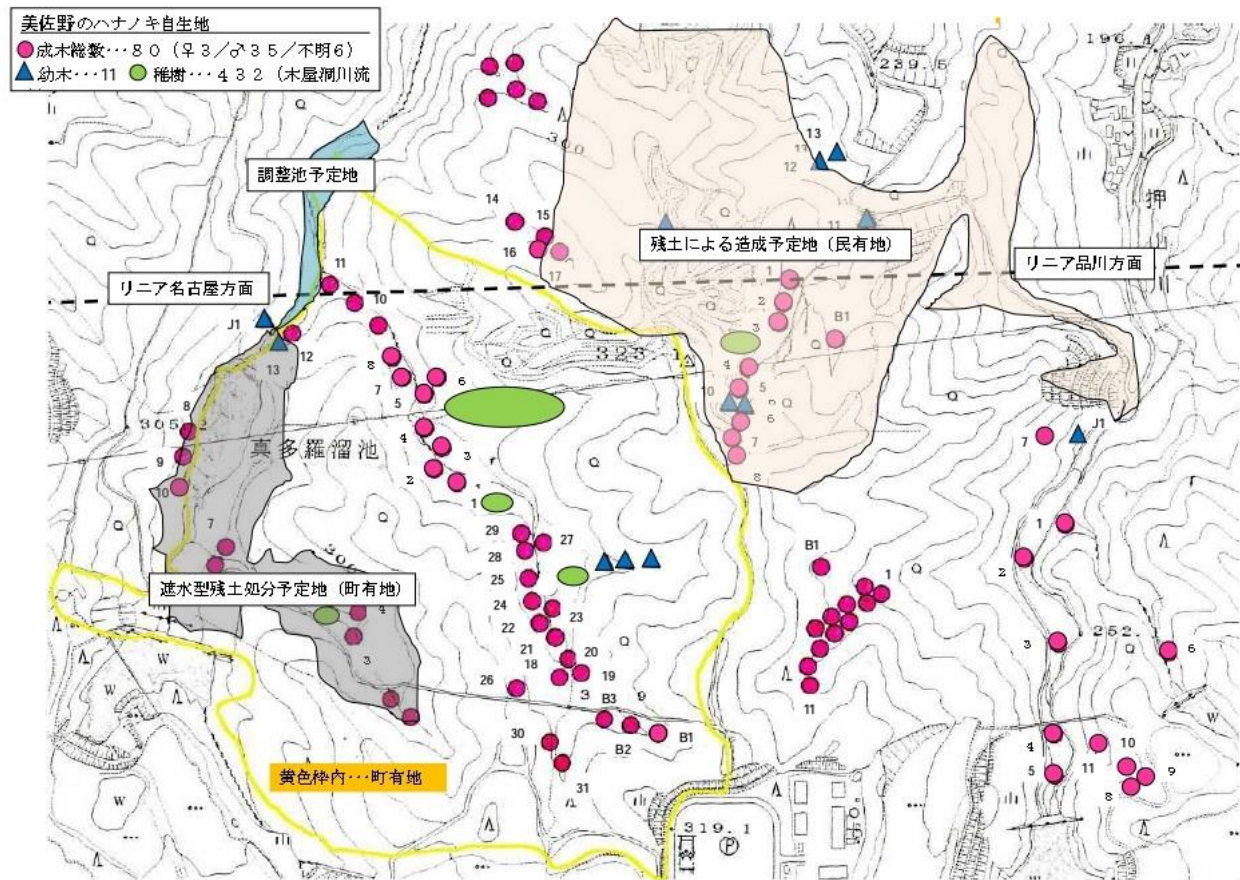
毎木調査記録
2007.4.17～2015.4.25

御高町版レッドデータブック調査担当有志による(ハナノキ調査グループ)

ハナノキとは？

- 「氷河期の生き残り」といわれるカエデの仲間。
- 自生地は岐阜、長野、愛知3県の限られた場所。
- ゴルフ場、工業団地、住宅地開発で生息地が失われ、環境省のレッドリスト「絶滅危惧Ⅱ類」

「候補地は絶滅危惧種の宝庫」



「水トラストニュース」2019.12より

- 美佐野湿地は、ハナノキの成木が80本、幼木と稚樹が400本以上もある町内最大の自生地。
- 80本のうち23本、約3割が伐採。

消えた「美佐野湿地」

- 「環境省に電話して、重要湿地から美佐野湿地の名前を消してやったんだ」。町職員の“自慢話”を町の助言役だった町民が証言。
- 2022年3月、環境省に問い合わせた3日後、「指定されている」と回答。「東濃地域湧水湿地群」リスト最後の「など」に含まれる。

「美佐野湿地」指定の経緯

- 2015年8月

「重要湿地500」（2001年選定）見直し作業中の環境省が「最終確認」文書を岐阜県を通じて御嵩町に送付。リストに「美佐野ハナノキ湿地群」。

- 同年9月

御嵩町が岐阜県を通じて環境省に回答。

町から環境省への回答（抜粋）

- 「美佐野湿地」について、町としては推薦してきた経緯はなく、意見を述べる立場にない。
- 「美佐野湿地」にかかる美佐野地域には現在、国策として推進されているJR東海のリニア計画に該当する地域があり、環境アセスメントが行われた。その結果に対する環境大臣意見と今回の選定に関連性があるのか環境省に尋ねたい。

2016年4月、「重要湿地」公表

【大森湿地群, 前沢ダム周辺湿地群, 美佐野ハナノキ湿地群, 窯洞ため池湿地, 境西湿地, 虎溪山湿地, 竜吟湖周辺湿地群, 松野湖周辺湿地群, 大湫町周辺湿地群, 釜戸町ハナノキ湿地群, 大根山湿地, 黒ノ田東湿地, 千旦林岩屋堂ハナノキ自生地, 根ノ上湿地, 馬籠ハナノキ自生地, 栴ノ湖周辺ハナノキ自生地など】シデコブシ, ハナノキといった湿地林構成種が集中的に分布しているほか, ミカワバイケイソウ, トウカイコモウセンゴケなど東



「最終確認」文書から

【大森湿地群, 前沢ダム周辺湿地群, 窯洞ため池湿地, 虎溪山湿地, 竜吟湖周辺湿地群, 松野湖周辺湿地群, 大湫町周辺湿地群, 釜戸町ハナノキ湿地群, 大根山湿地, 黒ノ田東湿地, 根ノ上湿地, 中津川市のハナノキ・シデコブシ自生地など】シデコブシ,

環境省ホームページから

「不都合な事実を伏せた事情」報道



残土処分場候補地が「重要湿地」であることを伝えるサンデー毎日と朝日新聞

「重要湿地」報道後の動き

- 2022年11月10日 第4回フォーラム

町が初めて、「美佐野ハナノキ湿地群」が「重要湿地」に指定されていることを町民に説明。

一方、「ハナノキ群生地は置き場計画から極力避けられている」とJR東海の説明を追認。

- 2023年1月21日 第5回フォーラム

残土処分場候補地すべてが「重要湿地」に含まれることを町がようやく認める。

環境相「適切な環境配慮が重要」

- 西村明宏・環境大臣（2022年11月11日）

「重要湿地に選定されることによって法的に規制が生じるものではないが、関係自治体や事業者が適切に環境配慮を行うことが大変重要」

- 古田肇・岐阜県知事（同年11月22日）

「美佐野湿地が（重要湿地に）含まれているのか、いないのか、ズルズル来てしまった」「これが適地といえるのかどうか、しっかりとした議論が必要ではないか」

「裏」フォーラムも開かれていた

- JR東海「今回の要対策土はそもそも自然由来、それほどの影響は考えられない」→有識者「地下で安定していた物質を地上に持ってくることにより、雨水にさらされるなど環境が変わる。ごまかしてはいけない」
- 有識者「(遮水)シートの耐用年数はほぼ30年」「二重でも一体だと一発で破れないか心配」「理論上、100年もつという話をしているが実績がない。実績が50年ぐらいしかない」

フォーラムは終了したが・・・

- 2023年2月5日 町の「重要湿地の保全に関する勉強会」

重要湿地推薦の研究者「世界的にも屈指の規模」「5本の指に入る」「最後の砦」「そのまま残してほしい」

- 同年3月21日 第6回フォーラム

残土処分場候補地の地元全16自治会でつくる「残土を考える会」が「決議書」を読み上げ、町、JRに提出。

「生命、財産および環境（重要湿地）に重大なリスクが想定されることから、地域、住民が一体となって、トンネル残土から出る危険な残土持込に反対」

町長「先送りするしかない」

- 渡邊公夫町長が引退。「先送りするしかない」→前岐阜県職員の渡辺幸伸氏が新町長に。
「白紙の状態に住民と話し合い、方針を決める」
- 「日本生態学会」自然保護専門委員会、処分場候補地の除外を求める要望書（2023年3月）。
- 「日本野鳥の会」、重要湿地を残土処分場にしないことを求める要望書（同年8月）